

## 鳥取県立博物館の今後の施設整備のあり方に関するアンケート結果について

平成27年3月16日  
博 物 館

県立博物館は、3つの分野（美術、自然、歴史・民俗）にわたる総合博物館として昭和47年に開館して以来40年以上を経過し、建物・設備の老朽化が進んで、収蔵庫や駐車場が全く足りないなど深刻な問題を抱えています。

そこで、博物館の在り方を検討されている有識者（博物館現状・課題検討委員）からいただいた意見をもとに、県民の皆様からも意見をお聞きし、今後整備を進めていく上での参考とするため、県民参画電子アンケートを実施しましたので、その結果を報告します。

### 【調査概要】

- ・ テーマ：鳥取県立博物館の今後の施設整備のあり方に関するアンケート
- ・ 期 間：平成27年2月10日 ～ 平成27年2月25日
- ・ 対 象：県政参画電子アンケート会員
- ・ 回 答：401名／485名（82.7%）（※回答者数は重複回答者除く）

#### （問1）あなたの性別をお答えください。

1 男性	176人	43.9%
2 女性	225人	56.1%

#### （問2）あなたの年齢をお答えください。

1 20歳未満	0人	0%
2 20～29歳	42人	10.5%
3 30～39歳	121人	30.2%
4 40～49歳	111人	27.7%
5 50～59歳	63人	15.7%
6 60～69歳	43人	10.7%
7 70歳以上	21人	5.2%

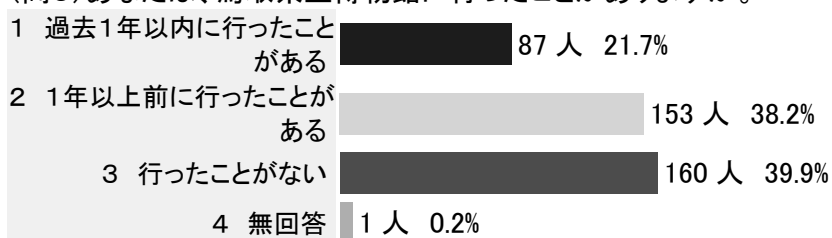
#### （問3）あなたの職業をお答えください。

1 自営業（農業等を含む）	28人	7%
2 会社員（公務員、団体職員等を含む）	186人	46.4%
3 主婦	94人	23.4%
4 学生	11人	2.7%
5 その他	82人	20.4%

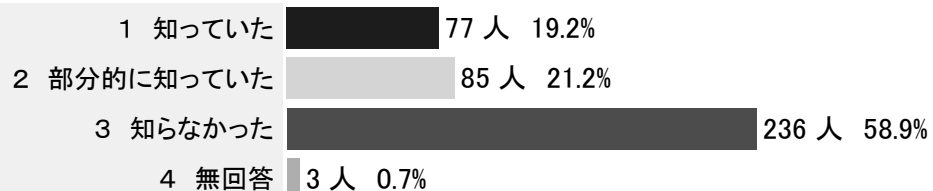
(問4)あなたのお住まいの市町村をお答えください。



(問5)あなたは、鳥取県立博物館に行ったことがありますか。



(問6)あなたは県立博物館が前述のような問題を抱えていることを知っていましたか。



(問7) 県立博物館について新たな施設を整備する場合、どのようにするのが良いと思いますか。  
なお、各案の詳細については、別表「施設整備の方策」を参考としてください。

1 美術分野のための新たな施設を整備(現在の施設は自然分野と歴史・民俗分野のための施設に改修)	203人	50.6%
2 自然分野のための新たな施設を整備(現在の施設は美術分野と歴史・民俗分野のための施設に改修)	75人	18.7%
3 歴史・民俗分野のための新たな施設を整備(現在の施設は美術分野と自然分野のための施設に改修)	66人	16.5%
4 その他	55人	13.7%
5 無回答	2人	0.5%

「4 その他」の主な意見

- ・歴史と民俗分野をやまびこ館に移す。現在の施設は、美術と自然分野のための施設にする。
- ・美術分野・自然・歴史・民俗分野すべて整備されたほうがよいと思う。
- ・そのままでよい。建て直すとまた、多額のお金がかかる。
- ・新築の施設を作らず、既存のビルを改修して、3分野のうちの1つか2つを移管する。
- ・倉庫を別の場所で保管する。

(問8) 前問であなたがそのようにするのが良いと考えられた理由、そのようにする場合に留意してほしいと思われる事項などについて、自由に記載してください。

○問7で「1 美術分野のための新たな施設を整備」と回答された方の理由等

- ・この際、足立美術館のような本格的な美術館を建てて県を活性化してほしい。
- ・城下町の名残を残し、周囲の景観にマッチした現在地は博物館としては立地条件は素晴らしいと考えます。ただ、問題となるのは駐車場が少ないことです。歴史、民族分野の常用展示は現状とし、特別展など大型スペースが必要な美術分野は、新築移転することを希望します。
- ・自然、歴史・民俗分野は現在地に。久松山のふもとは鳥取の自然、歴史そのもので、その展示に最適場所である。美術分野は他所へ。自然、歴史・民俗分野に比べ場所の選定にこだわりが少ない。
- ・収蔵物の管理上 薬品を使う自然分野から離れたほうが善いと思うし、特別展など展示物の入替えや来館者が一時的に集中する美術館は別施設(棟)とし、自然分野と歴史・民族分野とはかかわりが深く切り離せない部分があるので、一施設で展示するのが自然だと思う。

○問7で「2 自然分野のための新たな施設を整備」と回答された方の理由等

- ・鳥取県は自然が有名なので、もっと自然分野に力を入れても良いと思う。
- ・鳥取県の自然を誇り、護り、全国に発信するためには自然分野のための施設を分離したほうが良い。
- ・博物館の魅力は、美術館と違って、自然や歴史分野が充実している面にあると思うから。鳥取は自然を前面に出してアピールした方が良いと思う。美術品は期間限定で他施設から借りてくれば良い。
- ・現在の場所は立地が良く美術館としてふさわしいと思う。鳥取県はジオパークもあり、自然豊なところなのでそれを活かせるような施設も良い。

○問7で「3 歴史・民俗分野のための新たな施設を整備」と回答された方の理由等

- ・美術分野の施設を新たに整備しても、貯蔵品があまりないのではないか。歴史や民俗品は鳥取ならではの貴重なものがあると思うので、ゆっくり鑑賞したい
- ・鳥取県において、歴史と民族分野は重要。周知と保存に重きをおいた新しい施設を。
- ・鳥取県に青谷や淀江など全体的にも有名な遺跡がある。総合学習する場所を設置し、次に現地学習が出来るようにする。

(別表)

施設整備の方策

区分	①美術分野のための 新たな施設を整備 (現在の施設は自然分野と歴史・民俗分野のための施設に改修)	②自然分野のための 新たな施設を整備 (現在の施設は美術分野と歴史・民俗分野のための施設に改修)	③歴史・民俗分野のための 新たな施設を整備 (現在の施設は美術分野と自然分野のための施設に改修)
新施設	<ul style="list-style-type: none"> <li>展示・保管資料を適切な環境下で管理</li> <li>主要資料を常設展示</li> <li>大型資料を展示</li> <li>可動壁等を備付け</li> <li>作品制作室の設置</li> <li>建物設備の老朽化対応</li> <li>搬出入口等の大型化</li> <li>燻蒸庫を整備</li> <li>館内設備の耐震対策</li> <li>十分な規模の駐車場</li> <li>バリアフリーとシンプルな基本動線</li> <li>県民ギャラリーとしての利用</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>展示・保管資料を適切な環境下で管理</li> <li>大型資料を展示</li> <li>体験型展示等に対応</li> <li>体験学習室の設置</li> <li>収蔵庫等の適切配置</li> <li>建物設備の老朽化対応</li> <li>搬出入口等の大型化</li> <li>十分な規模の駐車場</li> <li>バリアフリーとシンプルな基本動線</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>体験型展示等に対応</li> <li>体験学習室の設置</li> <li>図書・情報コーナーの設置</li> <li>建物設備の老朽化対応</li> <li>バリアフリーとシンプルな基本動線</li> </ul>
施設の規模*	<ul style="list-style-type: none"> <li>他県の例を見ると、在り方によっては広い空間が必要となり、施設規模が大きくなることもある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>他県には大型のものも多い。</li> <li>最近の他県施設は、歴史分野と併せても当館現施設(延床面積約1万㎡)と同程度</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>大型施設は、全国的なアピール力を有する歴史遺産等がある地域の施設に限られる。</li> <li>他県には当館現施設より小型のものも多い。</li> </ul>
基本的な在り方	<p>多くの人が訪れ易い中心市街地等に設置して、本県ゆかりの作家の作品や、全国的・世界的な美術の名品に、県民が日常的に親しめるようにする施設(美術を特別なものと考えず、日常的に楽しめるようにする施設)とする場合</p> <p>(留意点)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>広い敷地確保は容易でないが、広い公共空地もある。</li> <li>周辺の都市施設等との連携により、地域活性化に貢献。</li> </ul>	<p>多くの人に日常的に利用して貰えるようにすることを第一に考え、周辺に多くの人暮らし、交通も便利な中心市街地等に設置し、利用者に素晴らしい自然が残されている所を紹介して、人々をそこへと誘導する施設とする場合</p> <p>(留意点)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>広い敷地確保は容易でないが、広い公共空地もある。</li> <li>周辺の都市施設等との連携により、地域活性化に貢献。</li> <li>多くの人が訪れる場所で本県の自然等に関する情報を発信し、人々をその自然がある場所へ誘導。</li> </ul>	<p>多くの人が利用し易く、歴史的な旧跡等が今も残る市街地に設置し、本県の歴史や生活文化を象徴する物や場所を紹介し、人々を現地へ誘うとともに、周辺環境と連動して来館者に本県の歴史等を体感して貰う施設とする場合</p> <p>(留意点)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>古代や中世を中心とするなら、市街地への設置は困難なので、離れた所にある遺跡等へ人々を誘導するのに力を入れるべき。</li> <li>広い敷地確保は容易でないが、広い公共空地もある。</li> <li>周辺の都市施設等との連携により、地域活性化に貢献。</li> </ul>
	<p>市街地の喧噪とは一線を画した、美しく閑静な環境の下で、本県ゆかりの作品や全国的・世界的な名品をじっくりと鑑賞して貰うことを重視した施設とする場合</p> <p>(留意点)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>郊外等に設置されることが多いので、街中より用地は確保し易いが、集客性は落ちる。</li> <li>独自の目玉展示や施設の大型化による魅力強化が必要。</li> </ul>	<p>鳥取砂丘や大山など本県を代表するような自然・名勝の近くで、その環境を活かした展示や普及活動を行い、本県の自然の豊かさ・素晴らしさを利用者に体感して貰うための施設とする場合</p> <p>(留意点)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>相対的に地価が安く、広い敷地が確保しやすい。</li> <li>交通の便が悪く、多くの人に利用して貰いにくい。(鳥取砂丘や大山の近くなら、一定の集客は確保可能)</li> <li>観光客の利用が多くなるので、地元に着した展開にも留意すべき。</li> </ul>	<p>本県を代表する遺跡・遺構に近接して設置し、それらと連動する形で展示や普及活動を行い、本県の歴史や独特な生活文化を利用者に体感して貰うための施設とする場合</p> <p>(留意点)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>場合によっては、古代集落遺跡や中世山岳寺院の近くに設置することも考えられるが、既設の展示施設との調整等が必要。</li> <li>敷地は確保しやすいが、交通は不便。遺跡等に近いただけでは集客が見込めず、独自の目玉展示や施設の大型化による魅力強化が必要。</li> </ul>
現施設	<p>(現在の施設は自然分野と歴史・民俗分野のための施設に改修)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>両分野は密接に関わっており、一館で両分野を取り扱う例は全国的にも多い。</li> <li>両分野の共用であれば、現施設の空間利用は、他の場合より余裕あるものとなり、課題対応に必要なスペースを確保できる可能性が大きい。</li> </ul>	<p>(現在の施設は美術分野と歴史・民俗分野のための施設に改修)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>両分野は、保存・活用する資料等に重なる部分もあり、一つの施設で対応することに違和感はない。</li> </ul>	<p>(現在の施設は美術分野と自然分野のための施設に改修)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>両分野の複合施設は、全国でも殆ど見受けられないが、そうした希少性が、逆に当該施設の個性となる可能性もある。</li> </ul>
課題		<ul style="list-style-type: none"> <li>歴史分野は近世史が中心だが、美術分野は近現代作品も重視しており、連携には工夫も必要。</li> <li>歴史分野の比重が増大し、近隣施設との重複顕在化。</li> <li>他県の美術館には、規模的に当館現施設を大きく上回る施設が多いので、両分野が入居した場合、手狭で両方とも課題に十分対応できなくなる恐れがある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>歴史・民俗分野抜きで、両分野を有機的に連携させ、施設を一体的に運営していくのは、容易でないかもしれない。</li> </ul>

\* 最近整備された他県同種施設の傾向を整理したものです。一般に、施設の規模が大きくなるほど、整備に費用が掛かるようになります。